

南こうせつさん 21日須崎市でライブ

考えよう「地球益」



「川を守る高知からの動きが全国に広がってほしい」と話す南さん(東京都千代田区のホテル)

「神田川」などで知られるフォーク歌手の南(こうせつ)さん(全名)大分県杵築市が二十一日、須崎市で開かれるチャリティートーク&ライブ「森よ、川よ、海よ、甦(よみがえ)れ」に出演する。アウトドアライターの天野礼子さんや作家のC・W・ニコルさんのトーク、そしてライブコンサートを行う計画。来高を前に、熱いメッセージを聞いた。(聞き手、社会部・竹村朋子)

「友人でもある天野さんのは開高健(故人)さんの弟子誘いがあったそうですね。で、魚釣りのプロで川を愛する天野さんとは長良川河口(め)でている人。一番大事な(せき)の反対運動のとき、な川が汚れていることを憂えに出会ったんです。熱心に反っている。地球ができて四十五対運動をしていて、僕はギタ 億年。便利になる一方で、先一本で応援に行った。彼女、祖が大事にしてきたものを針

小さな力が世を動かす

拳上げなくていい

でついついような時間で壊すのは忍びないと僕も思います。今の自然環境をどうやっていっていますか。

「一九七〇年代に初めてアメリカに行った時、水を買うなんて何という国だろうと思った。よもやわれわれの国が同じようになるなんて。利便性を求め、文明を享受し続ける中、鳥インフルエンザやB

メモ

チャリティートーク&ライブ「森よ、川よ、海よ、甦れ」は仁淀川流域市町村などでつくる実行委員会の主催で、21日午後7時から須崎市新町2丁目の市民文化会館。入場料5000円。収益金は、昨年開園した「県立横浪」の森に高知大と

京都大が開設する「横浪海実験所」の維持費として寄付する。チケットは同市や流域市町村、高知ブレイカイドなどで発売中。問い合わせは須崎市企画課(0889・42・5691)。

SE(牛海綿状脳症)といっ たこれまでになく病気が災害が発生しています。空気、水、緑を生んできた生物のバランスが崩れています。やがて動植物が全滅し、人間もそうなるのではないのでしょうか

益を重視させると必ず摩擦が生じます。国益ではなく、『地球益』を考える時代に入っていると思います。南さんの音楽活動にはメッセージ性を感じます。『音楽で植物や緑を直接、増やすことはできません。けれども人の心を癒やしたり、喚起する力はある。世代、国籍を超えて、一緒に環境問題に取り組むことができたい。川も海も大地も全部、神

「みなさんが手拍子をして祈るように歌える曲がいいなと作ったんです。愛・地球博のライブコンサートでフィナーレで歌い、盛り上がりましたよ。ぜひ一緒に歌ってほしいですね」

「高知にはどんなイメージがありますか。」

「四歳年上の兄(四十六歳

を直すことだけでもしたいと思っています。私たちにも何かできるでしょうか。個人の目線、意識で、地球のため、自分の体のためにいいものを選んで買っただけでいいのを選び上げていく。拳を振り上げてなくていいんです。高知から発信したいのは、一つの川を守るようにする動きがひな型となって広がってほしいですね。こういうやりかたもあるんだ、と認めてもらえれば…」

「ライプでは南さん作曲の歌「川よ、甦れ！」も楽しみます。」